

平安京左京六条三坊八町（京都市立修徳小学校跡地）発掘調査略報

1999年2月6日 （財）京都市埋蔵文化財研究所

はじめに

修徳小学校跡地は平安京左京六条三坊八町の南西部にあたります。この周辺は平安時代には具平親王（村上天皇皇子）の千種殿をはじめ小六条院、六条殿、五条東洞院御所などの邸宅や院の御所が集まる高級住宅地であり、また室町時代には商工業をいとなむ人々が集住するにぎやかな地域だったようです。

そのためこの地の埋蔵文化財の発掘調査を実施することになり、昨年10月から調査を始めました。調査対象地は約1,300m²ですが、敷地と掘り下げる土量を考慮し、調査区を北、南の二つに分けて発掘を進めています。

遺構

10月5日に北調査区の機械掘削を開始して以来、江戸時代後半、江戸時代前半・桃山時代、室町時代後半、室町時代前半・鎌倉時代と調査を進め、今はおもに鎌倉時代前半の遺構を調べています。これまでに見つかった遺構は総数にして500基あまりで、井戸、溝、柱穴のほか、ごみ捨て穴のような土器・陶器類のたくさん捨てられた穴や墓跡と思われる土壌などがありますが、特に井戸はこれだけの面積のなかにすでに30基ほど見つかっており各時代の生活密度の高さをものがたっています。

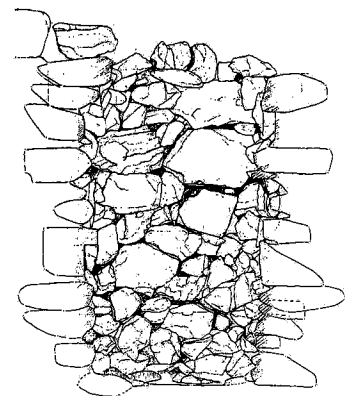
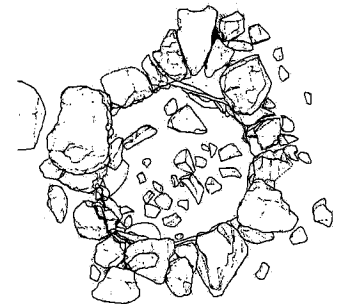
遺物

各遺構からはたくさんの遺物が出土し、その量は現在までに整理箱約600箱にのぼります。遺物の大半は土器・陶磁器類ですが、銭、煙管、飾り金具などの金属製品や石鍋、石臼、砥石など石製品、あるいは漆器椀や箸といった木製品もあります。

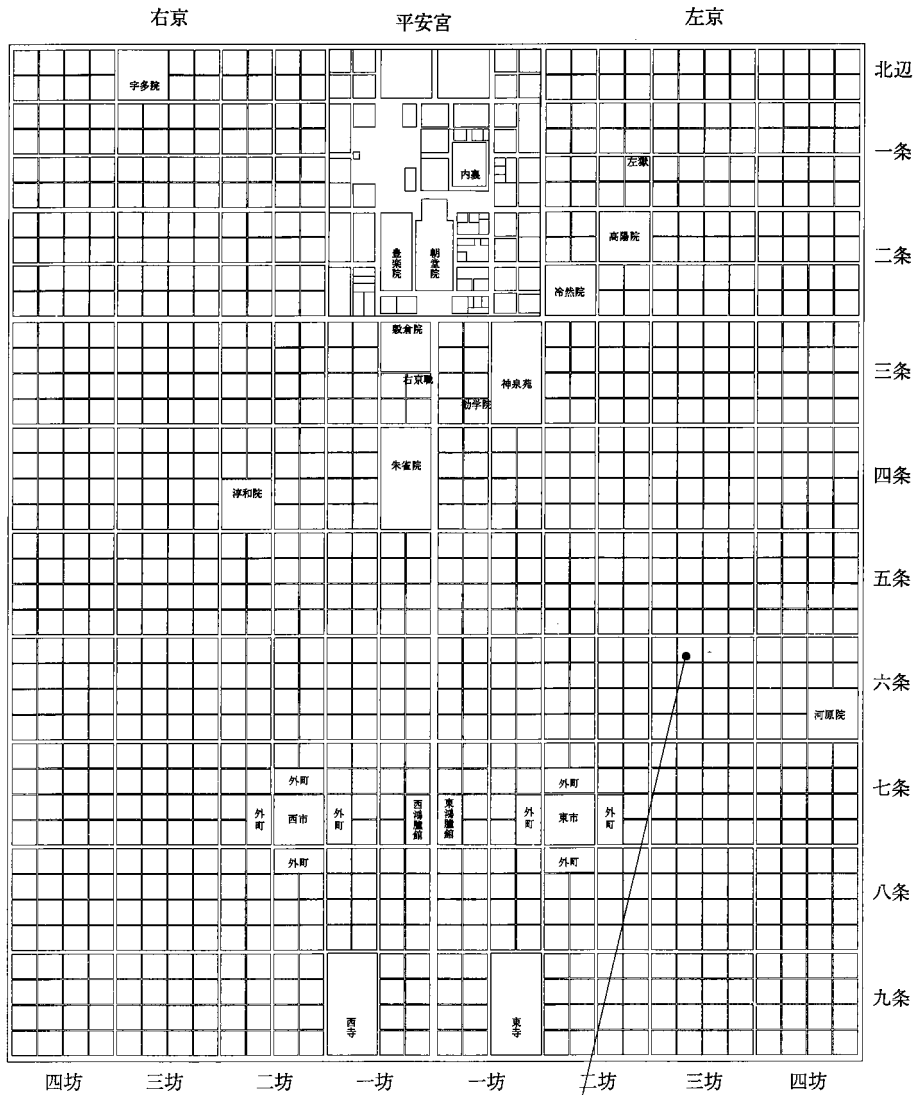
これらの遺物の中には鎌倉・室町時代の常滑、瀬戸、中国（元や明）から輸入された青磁、桃山・江戸時代の志野、織部など美濃焼きや唐津あるいは信楽、丹波、備前等々豊富な各地の焼き物がみられ、政治、経済、文化の中心であった平安京・中近世京都の豊かさをしのばせています。

今後の予定

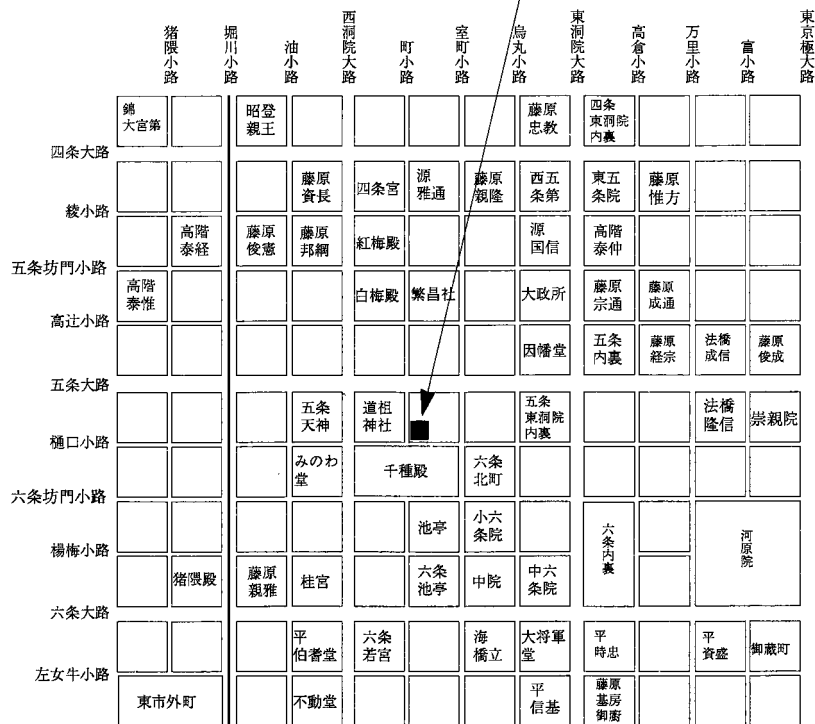
これまでに調査した井戸などの深い遺構の断面観察によると現在調査している鎌倉時代の遺構の下層には平安時代後期、平安時代前期さらにその下には弥生時代末から古墳時代前期の遺構が確認されています。今後3月にかけて北調査区のそれらの遺構の調査を進め、4月には南調査区の発掘に移ってゆく予定ですが、予想以上に遺構の密度が高く、また弥生時代の遺構の存在が確認されたため、調査期間について多少の変更を余儀なくされる可能性もあります。



室町時代後半の井戸



遺跡の位置



調査地周辺の平安時代の邸宅